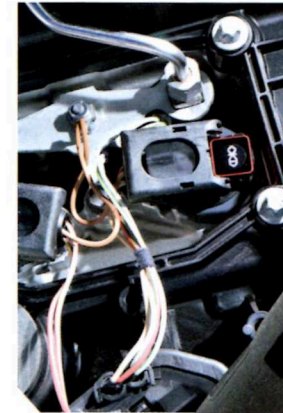
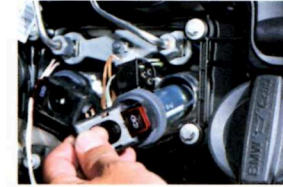
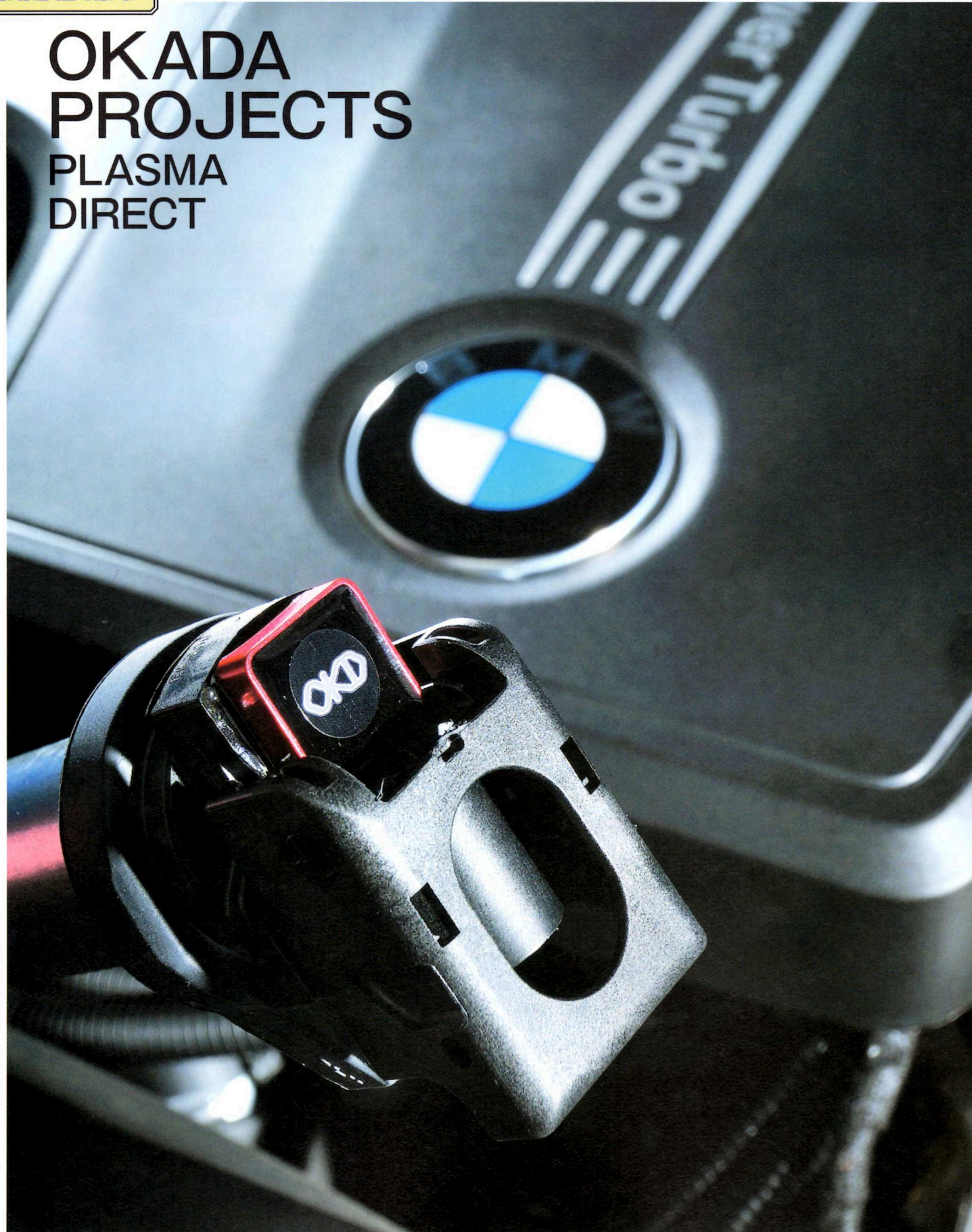


OKADA PROJECTS PLASMA DIRECT



強力なスパークがパワーアップを導き出す

無理矢理ではなくて、本来エンジンが発揮すべきポテンシャルが自然に手に入る。だから各部への負担の心配もいらない。パワーアップというよりもパワーダウンをなくす手法は、これからの主流となる!

問●オカダプロジェクト TEL.044-822-3341 www.okadaprojects.com
写真●ウイズ・フォト 文●増田高志 (af imp.)



←右の純正品に比べて、見た目の違いは上部にセットされたロゴマーク入のカバーぐらいだ。あとは内容で勝負する!

純正クオリティーの品質だから加工はいっさい必要ない

←交換作業はダイレクトイグニッションのアタマにセットされているカバーをハズして引き抜き、入れ換えるだけで完了する。純正に優るとも劣らない品質だからスムーズな作業が可能になる。車種によってはエンジンカバーの取り外しが困難だったり、イグニッション本体に手が入りにくかったりする場合もある

↓品質を管理するためにシリアルプレートが入っている。万が一の不具合にも機敏に対処できる



←一度使ったユーザーはクルマが代わってもまた装着するほど、効果が期待できる。イグニッションコイルと一体化して点火エネルギーを増大。¥99,800+税



本来の性能を引き出して口入もなくせる高効率パーツ
エンジンを絶好調に保つための基本3項目が良い混合気、良い圧縮、そして良い点火。そのなかのひとつ、「点火」の質を上げるアイテムがプラズマダイレクトだ。
点火とは、イグニッションコイルで作られた電気をスパークプラグで放電して、混合気に着火することだ。その火種が燃え広がりはピストンを押し下げる爆発力を動力源とする。
この燃焼エネルギーをより大きいものにするためにプラズマダイレクトはノーマル対比で約2倍の高電流を流す。なおかつ3回以上の点火を発生するマルチスパークも採用。

F32 BMW 420i Coupe M Sport

↓付けてすぐよりも50kmぐらい走ってからのほうが効果が現れる。コンピュータが強力な火花に合わせて点火時期を調整するからだ



この効果でガソリンを無駄なく燃やして完全燃焼に近づけていく。狙いは未燃焼ガスの発生を抑えて、そのエンジンが生み出せる本来のパワーを手に入れることだ。
エンジンの秘めるポテンシャルをフルに発揮しているクルマは本当に少ない。これではあまりにも足りない。ガソリンは有効に使わないと、とくに最近のクルマはエンジン制御を司るコンピュータの能力が飛躍的に向上している。繊細なエンジンマネージメントはプラズマダイレクトの効果を、より引き出しやすくしてくれるメリットがある。
エンジンパワーに影響を与える点火時期は異常燃焼のひとつであるノッキングを回避しながら最適なタイミングで行われる。ノッキングを回避することなどは、パワーダウンを招いてしまう。
プラズマダイレクトによる燃焼効率の向上はノッキングの出にくさにも貢献する。つまり点火時期の遅れが減って、パワーダウンが激減。こうして確実に、しかもエンジンに優しいパワーアップを成し遂げる。